

和歌山県指定無形民俗文化財

熊野お燈まつり

毎年2月6日 於:神倉神社



お燈まつりは
男のまつりは
山は火の滝
下り竜

神倉神社と霊石ゴトビキ岩



〒647-0020 和歌山県新宮市徐福2-1-1 新宮駅構内

新宮市観光協会

TEL 0735-22-2840
FAX 0735-22-2842

16:00~18:00頃
市街地のあちこちから上り子が
現れ三社参りへと向かう。お互い
の松明を合わせ「たのむでえ
！」と声をかけ合う



上り子は19:00までに入山
500段余りの急な石段を登る



上り子が松明のハナを数ヶ所に
集め迎え火を待つ



集められたハナに火がまわり、
上り子の松明に点火していく



山上の鳥居の木戸が開くのを待
つ。火の粉が舞い、煙に燻され、
上り子にとっては苦行の時間



聖地・熊野に春を呼ぶ火祭り、神倉神社の「お燈まつり」は毎年二月六日夜、斎行されます。熊野年代記には敏達天皇三年(西暦574年)正月二日に神倉山が光を放ち、翌四年の正月六日夜、神倉火祭り始まると記されている歴史ある炎のみそぎ神事で、和歌山県の無形民俗文化財に指定されています。熊野三山の一つ熊野速玉大社の摂社・神倉神社は、日本書紀に天ノ磐盾(あまのいわたて)と記されており、ゴトビキ岩と呼ばれる巨岩がご神体。素朴な自然崇拝の原点で、熊野三山の神々降臨の霊山といわれています。ここを舞台に、二千人前後の上り子(祈願者)が、白装束に身を包み、荒縄を胴に巻きたいでたちで、五角錐の松明に御神火を受け、一年の家内安全などを祈願し、急峻な538段の石段を駆け下りる奇祭で、その様は「お燈まつりは男のまつり、山は火の滝くだり竜」と新宮節にも唄われています。火には全てを焼き尽くす力と、太陽のように全てを育てる生命力があり、古代よりこの火への畏怖と恵みに感謝する心が示された祭りで、上り子が松明の燃え残りを持ち帰り家に祀るのも熊野独特の神迎えを意味しています。

【お燈まつり諸神事のタイムスケジュール】

- 10:30 お供えの餅「カガリ御供(ごく)」を、速玉大社にて執行警備役の介釈が掲ぐ
- 12:00頃 上り子有志が王子ヶ浜にて禊(潮垢離)を行う
- 17:00 介釈が大松明を先頭に速玉大社へ向かう
- 17:00~18:00頃 上り子が阿須賀神社・速玉大社・妙心寺を巡拝(三社参り)して神倉神社へ向かう
- 18:00頃 神職及び介釈が行列で速玉大社から神倉神社へ向かう(国道42号線を通る)
- 19:00頃 上り子は、神社前(山上)と中之地蔵で待機
- 19:30頃 宮司、神前岩かけで火打石により斎火(いみび)をつくる
神殿開扉、大松明・カガリ御供・お神酒を供え、宮司が祝詞
大松明に点火、大松明が一度中之地蔵へ
中之地蔵で点火した上り子が山上へ登る
- 19:45頃 上り子の松明全てに火がともる
介釈が木戸(山上の鳥居の扉)を開める
- 20:00頃 介釈が木戸を開く、上り子が一気に石段を駆け下りる
上り子が見物者に迎えられ自宅へ
- 21:00頃 神職及び介釈ら下山、行列で阿須賀神社、速玉大社の順で幣を供える

【お燈まつりを見学される方へ】

お燈まつりは、上り子と呼ばれる祈願者が身を清め、祈願、感謝を行ない、ご神火を自宅に持ち帰る神迎えの原始的な祭礼です。一般的な「お祭り」のように祭囃子や夜店などが出て賑やかな雰囲気はありません。当日来られて静けさに驚く人もいます。また、見学につきましては、特別に見学席なども設けておりませんので、地元の方は、神倉神社が眺められる沿道から火がつく瞬間や火が下りてくる様子を見ております。上り子の家族は神倉神社ふもとの沿道で上り子を迎えます。見学の方もふもとの沿道までは行くことができます。

【見学ポイント】

- 17:00頃 阿須賀神社では、三社参りの上り子の様子が間近で見られます
- 18:00頃 上り子が神倉神社へ向かう様子が町のいたるところで見えます
見学場所:速玉大社や神倉神社麓の沿道など
(注)お燈まつり当日は、神倉神社麓の太鼓橋より中には入れません
- 19:45頃~20:00頃 神倉神社(山上)に待機している上り子の松明に火がともる様子や上り子が下りる様子は、神倉神社が眺められる国道沿いなどから見学できます。
特に国道42号線、新宮高校前交差点付近~裁判所前付近
- 20:00~20:30頃、上り子を間近で迎える
見学場所:神倉神社麓~神倉小学校校門前の沿道
神倉神社麓の太鼓橋付近は先頭を争う上り子を見る人で特に混雑します

【上り子として参加される方へ】

新宮市観光協会では、白装束や松明など購入先のご案内や当日着付のお手伝いはさせていただきますが、まつり中の事故等につきましては一切責任を負いかねますのでご了承の上、ご参加いただきますようお願い致します

下の鳥居を駆け抜ける上り子



王子ヶ浜にて上り子有志による「禊」

